

# ベルト着用12%止まり

## トラクター作業者調査

機械化協会

乗用型トラクターの作業者のシートベルト着用率は12・7%、ヘルメット着用率は7・9%だったことが、日本農業機械化協会の調査で分かった。生産現場の実態を正確に把握しようとして、作業者自身で確認してまとめた初の調査。左右のブレーキを連結しないまま道路を走行している割合は13・5%を超える

ど、大きな事故につながりかねない状況も判明した。同協会に所属する16府県の農業機械士が現場を回り、トラクターで698人を対象に、作業中に安全対策を取っているかを調べた。農水省の事業の一環である「農作業安全見回り活動」で、2022年度に調査した。トラクターのシート

ベルトの着用率は12・7%、非着用率は68・7%だった。残りは装備自体がない、または不明。着用率は大型トラクターが15・9%で小型よりも5・4%高かった。大型機を使う大規模法人などで、着用をルール化している場合が多いことが一因とみている。シートベルト、ヘルメットともに着用の法的な義務は

ないが、同協会は「安全確保へ、着用を当たり前にしてほしい」と呼びかける。

安全フレームを倒したまま作業している割合が15・7%、道路走行中に左右のブレーキペダルを連結していない割合が13・5%に上ることも分かった。連結しないままどちらかのブレーキを誤って踏み込み、急旋回して転落してしまう事態も想定される。安全フレームを倒したままの作業を含め、同協会は「絶対に止めてほしい」と訴える。(古田島知則)